

一町石

この町石は、町石道の根本大塔から奥之院墓地を經由して高野山の開祖である空海という僧（諡号 弘法大師、774-835）の廟である奥の院へと続く区間の始まりを示すものです。

町石という言葉は、「町」という昔使われていた 109 メートルに相当する長さの単位と「石」を合わせたものです。この参詣道には、およそ 109 メートルの間隔で 36 の町石があります。それぞれの高さはおよそ 3 メートルで、五輪塔（五重の塔）の形に彫られており、諸仏の中でその町石が表す仏尊の名に加えて彫刻者の名と建立日が刻まれています。